

気候情報

2005年9月の日本の天候

台風第14号による大雨、全国高温

9月の天気概況

上旬には東西に長く伸びた前線が南下したことや、大型で非常に強い勢力に発達した台風第14号が九州の西岸を比較的ゆっくりとした速度で北上したため記録的な大雨となった所があった。そのほかの日は、低気圧や前線が北日本から日本の北を通過することが多く、北日本や東日本日本海側を中心に雨の降る日もあったが、全国的に高気圧に覆われ晴れて残暑の厳しい日が多かった。このため、月平均気温は全国で高かったが、北日本では下旬に寒気の影響を一時的に受けたため下旬の気温は平年並となった。

上旬：初め晴れて残暑が残っていたが、中頃には台風第14号が通過したため、各地で大荒れの天気となった。台風は大型で非常に強い勢力に発達しながらゆっくりと進み、6日に長崎県諫早市付近に上陸し、その後は速度を速めながら日本海を北東に進んで、8日朝には北海道の北部を通過しオホーツク海に抜けた。台風が比較的ゆっくりとした速度で進んだため、長時間にわたって暴風、高波、大雨が続き、九州、中国、四国と北海道地方では、日雨量の記録を更新するなど記録的な大雨となった所があった。また、台風周辺から本州上の秋雨前線に向かって暖かく湿った空気が入ったため、4～5日には関東地方を中心に局地的に1時間に100ミリを超える猛烈な雨が降った。台風通過後は高気圧に覆われて晴れた所が多かったものの、10日には台風第15号が再び先島諸島に接近したため、九州や沖縄で激しい雨が降った。旬平均気温は、南西諸島で平年並のほかは高かった。旬降水量は、東日本日本海側で平年並のほかは多かった。旬日照時間は、東日本太平洋側で多く、北日本太平洋側で平年並のほかは少なかった。

中旬：初め台風第15号が先島諸島付近を通過して、本州上の秋雨前線の活動を活性化させたため東日本以西で短時間に強い雨の降った所があった。その後は、台風第15号から変わった低気圧等が日本海から北日本を通過し、北日本では天気は数日の周期で変化し、低気圧からのびる寒冷前線が通過した後は寒気の入る日もあったものの、そのほかの所は高気圧に覆われ晴れて暑い日が続いた。旬平均気温は、全国で高く、南西諸島を除き平年を 2°C 以上上回った。旬降水量は、北日本で平年並のほかは少なかった。旬日照時間は、北・西日本日本海側で平年並のほかは多かった。

下旬：初め、低気圧や前線の影響で北日本や東日本日本海側で雨が降ったが、西日本以西では晴れた所が多かった。24～25日にかけては台風第17号が伊豆諸島から房総半島沖を通過したため、東北地方から東日本にかけて雨が降り、伊豆諸島を中心に大荒れの天気となった。その後は、北東気流の影響で曇った東日本の太平洋側を除き大陸からの移動性高気圧に覆われ晴れた所が多かった。また、北日本には寒気が入ったため、21日には旭川で平年より3日早く旭岳の初冠雪を観測した。旬平均気温は、北日本で平年並のほかは高かった。

た。旬降水量は、東日本日本海側で平年並のほかは少なく、特に西日本と南西諸島では平年の10%以下となった。旬日照時間は、北日本太平洋側と東日本で少なかったほかは多かった。

9月の気候統計

平均気温：月平均気温は、全国的に高く、東日本と西日本、南西諸島ではかなり高かった。東日本と西日本の一部では平年を 2°C 以上上回ったところがあった。佐世保（長崎県）、熊本、人吉（熊本県）、延岡（宮崎県）で9月の月平均気温の最高値を更新し、2地点でタイ記録となった。

降水量：月降水量は、台風第14号の影響により九州地方や四国地方の一部で平年を大きく上回った。そのほかの地方では少なく、東日本の太平洋側ではかなり少なかった。九州などの一部で平年の200%以上となった一方、関東甲信地方や東海地方などでは平年の40%未満となったところがあった。

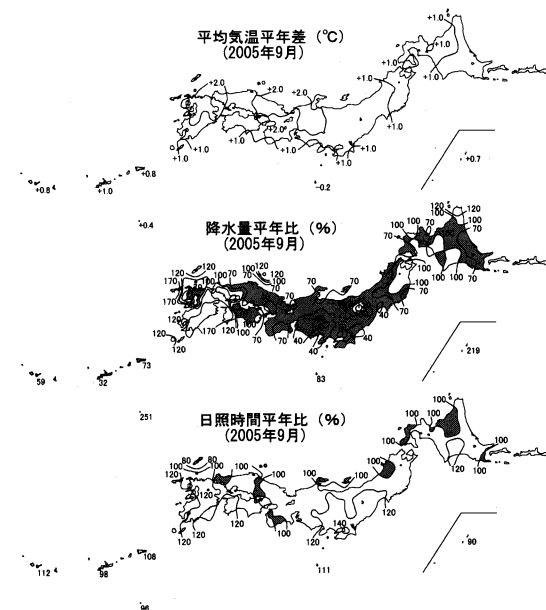
日照時間：月間日照時間は、北日本・東日本の日本海側では平年並だったが、そのほかの地域では、多かった。関東甲信地方、四国地方、九州地方南部ではかなり多く、沖永良部（鹿児島県）と西表島（沖縄県）では9月の月間日照時間の最大値を更新した。

（気象庁観測部統計室）

9月の記録（1位更新のみ）

- ・月平均気温の高い方から（ $^{\circ}\text{C}$ ）
佐世保 26.2 熊本 26.8 人吉 24.9
延岡 25.3
- ・月間日照時間の多い方から（時間）
沖永良部 252.4 西表島 235.6

2005年9月の平年差（比）図



注）陰影の部分は、平年より低い（少ない）地域を示す。